草の根技術協力事業（草の根パートナー型）

カンボジア王国

女性による野菜共同生産･出荷を通じた農村振興プロジェクト

事前調査報告書

平成 19 年 8 月

独立行政法人　国際協力機構

東北支部

東北支
JR
07-01

序　　文

独立行政法人国際協力機構は、国際協力への市民参加を促進する目的で、平成 14 年度より「草の根技術協力事業」を実施しております。

東北支部における草の根パートナー型案件は、平成 14 年度に提案された「持続可能な農業を通じた女性による農村開発プロジェクト」が、最初のプロジェクトとなりました。同案件の実施団体である特定非営利活動法人国際ボランティアセンター山形（IVY）は、山形県を拠点に定住外国人支援、国際理解教育等に取り組んでいる団体です。海外においては、主にカンボジアにおいて、農村開発の支援を行っています。前述のプロジェクトは平成 18 年 6 月をもって終了しましたが、同プロジェクトによって得られた成果を更に発展させるべく、「女性による野菜共同生産･出荷を通じた農村振興プロジェクト」が新たに提案され、採択されました。

新規プロジェクトの開始にあたり、東北支部においては、プロジェクトの立ち上げ状況を確認すると共に、今後の円滑な活動に向けた助言を行うことを目的に、平成 19 年 1 月 29 日から 2 月 5 日までの行程で調査を実施しました。

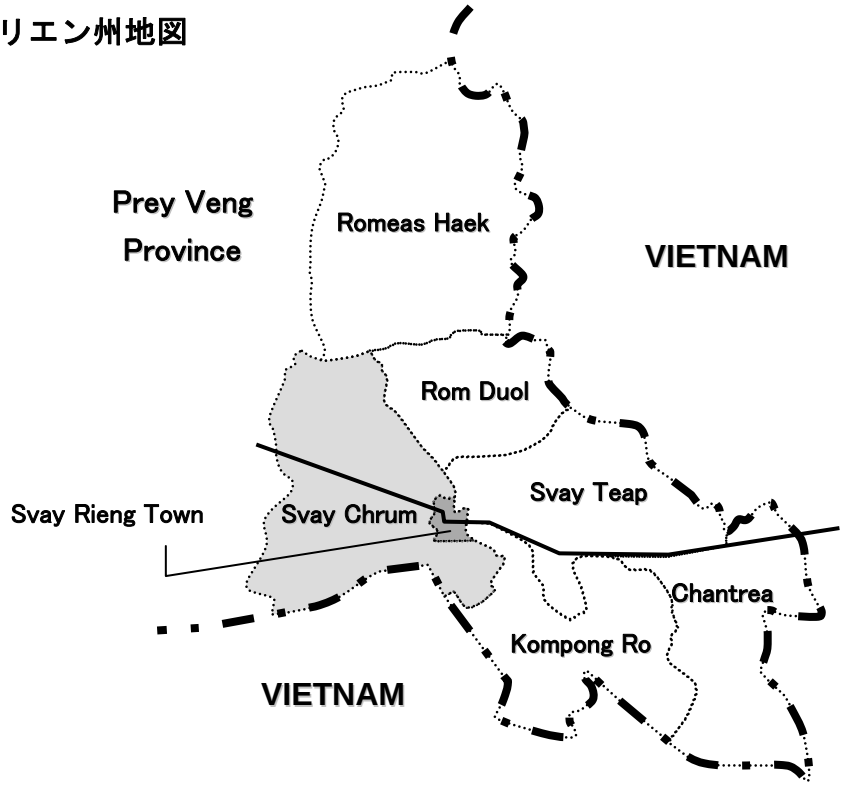
本報告書は、その調査結果を取りまとめたものであり、今後の事業の円滑な実施につながることを願うものです。本調査にご協力を賜りました関係者の方々に心から感謝の意を表します。

平成 19 年 8 月

独立行政法人国際協力機構
東北支部
支部長　　甲斐　直樹

カンボジア国地図

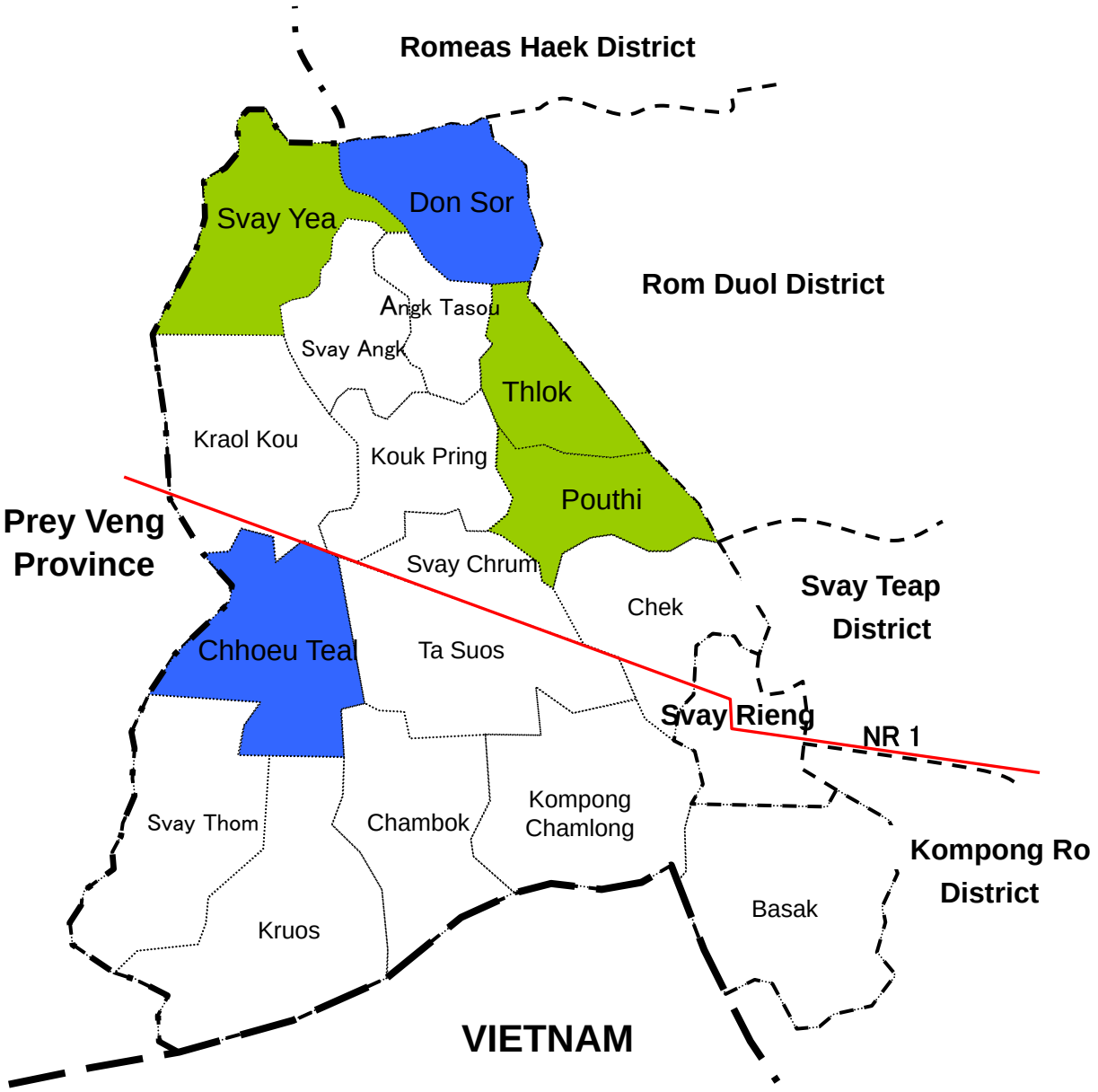
スバイリエン州地図



スバイチュルン郡対象地区（５カ所）の位置

：新規対象地区

：既存対象地区



プレイヴェーン州のマーケットに設置されているCEDACの店舗。

スバイリエン州のマーケットで野菜を持ち込んだ農民に聞き取りを行っている様子。

チェク村で女性組合メンバーが野菜栽培を行っている共同圃場。

州行政局や他NGOの前で、女性組合が前プロジェクト成果と現在の野菜販売事例について発表を行った。

パイロット村（チェク村、トラオ村）対象の問題分析ワークショップの様子。

IVYプロジェクトマネージャーとスバイリエン州農業局長との覚書署名。

目　　次

序文
地図
写真

第 1 章　調査の概要 1
1－1. 背景・経緯
1－2. 調査目的
1－3. 調査団員
1－4. 調査日程
1－5. 主要面談者リスト

第 2 章　調査の結果 4
2－1. 対象プロジェクトの概要
2－2. 調査項目及び調査方法
2－2. 調査結果

第 3 章　調査の総括 11

付属資料
1. プロジェクト･デザイン･マトリックス（PDM）
2. Memorandum
3. ワークショップ議事録（問題分析ワークショップ、SWOT 分析）

第１章　調査の概要

1－1. 背景･経緯

特定非営利活動法人国際ボランティアセンター山形（以下、IVY）は、カンボジア国スバイリエン州スバイチュルン郡において、平成 11 年（1999 年）以来貧困緩和を上位目的とした活動を行っている。平成 15 年（2003 年）7 月から 2006 年 6 月までは、草の根技術協力事業（パートナー型）として「持続可能な農業を通じた女性による農村開発プロジェクト」（以下、前プロジェクト）を実施した。

これまでの活動の結果、活動対象村（2 地区 14 村）では 14 の女性組合、55 の相互扶助グループ、42 の農業学習会グループが結成される等、村の女性たちのエンパワーメント、相互扶助の促進等の点で大きな成果をあげることができた。また、農業学習会を通じた家庭菜園の普及については、9 割以上の世帯がこれを導入し、一部では世帯間協力によるグループ菜園も作り始められていることから、より多くの世帯の協力を得、女性組合による収穫野菜の集出荷を行うことにより、新たな収入機会確保の可能性も生じている。しかしながら、このような動きが、市場経済の進む外部環境の下で確かなムーブメントとなって自立発展性を得ていくためには、技術（栽培技術）や方法（販売企画･運営管理）を農村の女性たちが確実に習得していくことが不可欠であることから、新たな協力の必要性が高まり、本プロジェクトが提案され、採択に至った。

本件調査団は、本プロジェクトの円滑な開始のため、現地政府機関等との協力関係を確認すると共に、野菜栽培･集出荷に係る技術的助言を行う必要性から派遣されたものである。

1－2. 調査目的

（1） プロジェクトの円滑な実施に向け、カンボジア側関係機関（農林水産省、スバイリエン州農業局）と新規プロジェクトの実施に係る協力体制について確認を行う。

（2） 現地関係者（現地 NGO を含む）との打合せ、活動対象村の視察等によりプロジェクト立ち上げの状況を確認すると共に、今後の活動内容・計画について実施団体に対し専門的見地から助言を行う。

1－3. 調査団員

≪団　　長≫　時田　邦浩（JICA 国際協力専門員）

≪協力計画≫　南　和江　（JICA 東北支部連携促進チーム職員）

1－4. 調査日程

平成 19 年（2007 年）1 月 29 日（月）～2 月 5 日（月）

月日	時間	行程	訪問地
1/29（月）		移動、プノンペン着	プノンペン
1/30（火）	10:00 11:00-12:00 13:00-16:00 PM	JICA 事務所、IVY 打合せ JICA 事務所表敬 関係者打合せ 移動	プノンペン
1/31（水）	 7:20 8:30 10:30-12:40 14:10-15:15 15:30-16:30 17:00	（IVY、カンボジア事務所が終日同行） チューカット地区マーケットにて、CEDAC 店舗を視察 CEDAC 農民グループ（農家）視察 CEDAC 事務所打ち合わせ クラウコー市場にて仲買人へのインタビュー チューティール地区視察（チェク村） IVY 事務所にて打合せ	プレイヴェーン州 スバイリエン州
2/1（木）	 7:30 9:00-11:30 14:00-17:00 17:30	（IVY、カンボジア事務所が終日同行） スバイリエン州農業局長協議 スバイリエン州農業局打ち合わせ PASC 開催（州知事、州農業局、その他行政・NGO 関係者が参加） IVY 事務所打合せ	スバイリエン州
2/2（金）	7:00 9:00-11:30 13:00-15:30	スバイリエン州農業局長協議（PAC 設置に関する覚書署名） チューティール地区 2 村（チェク村、トラオ村）を対象とした問題分析ワークショップ チューティール地区、ドンソー地区 14 村を対象としたワークショップ（関係者分析）	スバイリエン州
2/3（土） －2/4（日）		資料整理、報告書作成	プノンペン
2/5（月）	9:00-9:30 10:00-10:30	JICA カンボジア事務所報告 農林水産省表敬 帰国	

1－5. 主要面談者リスト

≪JICA カンボジア事務所≫

米田　一弘　　所長

鵜飼　彦行　　次長

田中　智子	所員
原口　明久	企画調査員
高橋　優子	NGO-JICA ジャパンデスク
山崎　陽子	フィールドコーディネーター（元 IVY 農業専門家）
Ms. Siv Cheang	ナショナルスタッフ

≪IVY カンボジア事務所≫

菊池　匡	プロジェクトマネージャー
Ms. MA Sokunthea	市場開拓担当
Ms. YORK Sanin	開発普及員
Mr. PHOK Sovann	開発普及員
Mr. KEN Vutha	開発普及員
Mr. HANG Vuthy	農業開発普及員
Mr. ENN Phanny	農業開発普及員
Mr. Noun Dan	農業開発普及員
Mr. EL An	総務

※この他、IVY 本部より安達三千代事務局長が調査に同行。

≪農林水産省≫

Mr. Tout Saravuth	Director of International Cooperation

≪スバイリエン州農業局≫

Mr.Chach Ratana	Director, Provincial Department of Agriculture
Mr.Buth Mororo	Investment officer
Mr.Tun Saman	Agronomist

≪CEDAC：Center d’Etude et de Developpement Agricole Cambodian≫

Mr. Ma Vegsna	Project officer
Ms.Prach Sokhemy	Staff

第２章　調査の結果

2－1. 対象プロジェクトの概要

（1） 案件名：女性による野菜共同生産・出荷を通じた農村振興プロジェクト

（2） 事業の背景と必要性：

スバイリエン州はカンボジア国南東部のベトナム国境沿いに位置している。7 郡 80 地区 690 村により構成されるが、ポルポト政権崩壊直後に帰還民がこの地域に流入したことから、人口密度は 178 人/㎡と全国平均の約 3 倍近い数値を示している。人口の約 9 割が農漁業に従事しているが、土壌が痩せている上に灌漑設備や農業知識の不足等により、農業生産性は低い。世帯あたりの平均耕地所有率は 1.15ha、1ha あたりの米の収量は 1,327kg と全国平均収量の 1,940kg より少なく、主食すら自給できていない現状である。（平成 18 年 6 月の事業提案当時）

この状況下、IVY は平成 11 年（1999 年）7 月から平成 15 年（2003 年）6 月まで、スバイチュルン郡チューティール地区 4 村において、貧困緩和を上位目的とした「女性による相互扶助組合設立支援事業」を実施した。また、平成 15 年（2003 年）年 7 月から平成 18 年（2006 年）6 月までの 3 年間、チューティール地区の残り 8 村とドンソー地区の 2 村も加え、「持続可能な農業を通じた女性による農村開発プロジェクト」を実施した。

上記活動の結果、活動対象村では 14 の女性組合、55 の相互扶助グループ、42 の農業学習会グループが結成された。女性組合の活動により、米銀行や最貧困世帯支援、グループ貯蓄が普及するなど、女性組合は村の女性たちのエンパワーメント、相互扶助の促進、安全網の整備等の点で大きな成果を残した。特に農業学習会を中心に家庭菜園についての知識･技術が普及し、現在活動対象村では、9 割以上の世帯で家庭菜園が行われている。加えて、一部では女性自助グループの近所関係を利用して乾季に井戸を共用したグループ菜園が始まっていることから、より多くの世帯の協力を得、女性組合による収穫野菜の集出荷を行うことにより、新たな収入機会確保の可能性も生じている。

そこで、本プロジェクトでは、前プロジェクトで確立した農業グループ網や世帯間協力を礎として、家庭菜園での販売用の野菜栽培を推奨し、組合組織の力をもって収穫野菜の集荷、共同出荷を事業として行う。この事業により生産者に収入向上をもたらすとともに組合が収益を上げる仕組みを確立し、組織の自立発展性を強める。

（3） 事業目標：女性組合による野菜の共同出荷体制の確立

（4） 対象地域：スバイリエン州スバイチュルン郡内 20 村

① 前案件からの対象村：チューティール地区 12 村、ドンソー地区 2 村、

② 新規 3 地区（スバイイエ地区、スロック地区、ポティレック地区）から各 2 村

（5） 受益者層（ターゲットグループ）：女性組合員世帯（約 1,500 世帯）

（6） 活動及び期待される成果：

※ 活動の詳細は、プロジェクト･デザイン･マトリックス（付属資料 1）を参照。

① 共同出荷の普及モデルが考案される。

対象村 20 村から 4 村を実験村として選定する。共同生産･出荷事業を試行的に実施し、各村でそれぞれの生産･出荷モデルが構築される。（他の対象村は、自分たちの村に適したモデルを選び、事業を行う。）

② 共同出荷を指導する人材が育成される。

事業参加者から共同出荷を統括する経営チームを選び、事業経営のトレーニングを行う。また、事業対象の 20 村が集まる情報交換会議を開催し、各村における取組の成果や経験の共有を図る。

③ 生産者が販売に向けた野菜栽培技術を獲得する。

事業参加者から野菜生産に携わる生産者チームを選び、定期的に野菜栽培技術のトレーニングを行う。また、村間で技術交換のための視察を実施する。

④ 野菜が安定的に出荷され販売される。

事業参加者の中でマーケティングチームを決め、市場調査を行う。買い叩きを未然に防止するため仲買人とのミーティングを定期的に行うと共に、販売促進のための活動を行う。また、スバイリエン州農業局と共催して農業祭を開催する。

⑤ スバイリエン州農業局との連絡･情報網が強化される。

定期的に公式･非公式の協議を行い、野菜栽培技術や販売に関する情報や助言を得る。また、IVY と農業局とが連携して各村のモニタリングや評価を実施する。

≪新規対象村における活動≫

既存の組織化プロセスを踏襲し、女性自助グループの形成を経て、一年後に女性組合リーダー選出のための選挙を開催する。新規援助対象村にて女性組合成立後、20 村の代表を集めた総代会、交流会の中で地産地消、産消連帯運動を提案する。

（7） 実施期間：平成 19 年（2007 年）1 月～平成 21 年（2009 年）12 月まで（3 年間）

2－2. 調査項目及び調査方法

本プロジェクトの対象地域（5 村 20 地区）のうち、前プロジェクトから支援対象となっているチューティール地区のチェク村及びトラオ村では、女性組合の自主的な取組として、既に共同圃場での野菜栽培（乾季のみ）を開始している。そのため、今回の調査では、上記 2 村での活動も踏まえて、プロジェクトの運営面と技術面について現状の確認と今後の活動を行った。具体的な調査項目は以下の通り。

≪運営面について≫

- プロジェクトの実施体制の確認

≪技術面について≫

- 野菜生産･出荷の方法について

- 市場における野菜ニーズの分析について
- 今後の事業展開の方法について（実証事業の実施）

【調査方法】

・ IVY 活動地域の視察、IVY スタッフとの打合せ
・ スバイリエン州農業局との協議
・ マーケットの視察
・ 仲買人へのインタビュー
・ ローカル NGO の視察
・ 女性組合を対象としたワークショップ

2－3. 調査結果

≪運営面について≫

（1） IVY の実施体制

プロジェクトマネージャーの下、前プロジェクトから引き続き活動しているスタッフも多い。各村における女性組合の取り組みが成功し、次のステップに進み始めたことは、スタッフの意欲にもつながっており、士気は高いと言える。

しかし、対象地域が広いため、個々の女性組合の活動や内部のマネジメントについて、十分には把握できていないという課題もある。今後、プロジェクトの活動が本格化し、各女性組合に野菜出荷によって資本が蓄積されていくと予想される中で、IVY スタッフから女性組合へのモニタリングの強化に努める必要がある。具体的には、女性組合用の積立金のモニタリングフォームを作成し、組合内での定期報告について指導するよう提案を行った。

（2） プロジェクト助言委員会の設立

スバイリエン州農業局長は、同州の農業開発に意欲的であり、本プロジェクトに対しても積極的な支援を表明している。案件形成の段階から IVY と協議を重ね、PDM においても州農業局からの情報提供・トレーニングへの講師派遣・評価の共同実施等が盛り込まれている。

今次調査では、具体的な連携の中身よりも、まずは PDM でプロジェクトの前提条件として記載されている「プロジェクト助言委員会（Project Advisory Committee：PAC）」の設立について協議を行い、IVY プロジェクトマネージャーと農業局長の間で PAC 設立に関する覚書（付属資料 2）を締結した。同覚書を踏まえ、それぞれの連携事項の具体的な内容については、今後プロジェクト活動の進捗に従って、IVY と州農業局の間で協議・調整されていくこととなる。また、PAC には州農業局と IVY のスタッフの他、スバイリエン州知事・支援対象地域の地区長（Commune Chief）・女性組合の代表者が参加している。

なお、スバイリエン州農業局長は、PAC とは別に農業分野に関る行政機関や NGO を招き、情報共有・意見交換を目的とした州農業委員会（Provincial Agricultural Sharing Committee：PASC）を設置したばかりである。PASC は IVY にとっても行政や他 NGO からの情報入手の機会であり、PASC の開催には適宜協力していく予定である。

(3) 各村での実施体制について

IVY では、野菜生産と出荷を行うにあたって、女性組合を「経営」「栽培」「販売」のチームに分け、IVY から指導を行いつつ、組合員自身による生産と出荷のシステムを作っていく計画である。しかし、前プロジェクトより IVY の支援対象となっている 14 村のほとんどにおいて、未だ女性組合の活動は仲間内、村内に留まっている。新プロジェクトに取り組むことで活動の範囲が大きく広がり、関係者も多くなることから、女性組合の組織としての基盤はより重要なものとなる。

そこで調査期間中、新プロジェクトへの基盤整備の一環として、共同出荷に関する関係者分析と女性組合の SWOT 分析のワークショップを行った。十分な時間を費やすことは出来なかったが、特に SWOT 分析において、女性組合の「強み」とはメンバーの団結力であるとの意見が多く､IVY によるこれまでの協力が根付いていることがうかがえた。

しかし、ワークショップやフィールドの視察を行う中で、同じ女性組合のメンバー同士でも情報共有が不十分といった課題も散見された（例えば、組合のメンバーが個別に野菜の販売に取り組んだときの結果や、仲買人の経験者がいたことなど)。そのため、組織力の強化に向けては、内部のマネジメントや情報共有についての指導を強化していく必要がある。また、女性組合自身も、野菜生産･出荷を進めていくにあたって、リーダーシップや技術力は不足していると感じており、もっと指導や研修を行って欲しいとの期待があるようだった。

また、上記の関係者分析では、女性組合の活動に対して、村長（Village Chief）や地区長、村の開発委員会（Village Development Committee：VDC）からの理解や協力が不十分との意見もあり、村内での協力体制の強化が望まれていることも判明した。今後は、VDC にも随時活動報告を行う等、理解を高めるための働きかけを検討するとともに、村長については PAC のメンバーとなったことから、より積極的な巻き込みを図っていくことが可能になると思われる。

今回の参加者は各村の代表者であったため、関係者分析と SWOT 分析は、今後より小さい単位（村別や複数村合同）においても行い、今後の活動におけるステークホルダーをその他のメンバーも理解するように努めることが望ましい。また、そのためにも、IVY スタッフのファシリテーション能力を強化する必要があろう。

≪技術面について≫

(1) 野菜栽培について

チューティール地区のチェク村とトラオ村では、本プロジェクト開始前から女性組合のメンバーが協働して野菜栽培を開始している。両村では、乾季で稲作が行われていない期間のみ、土地と井戸を借りて（チェク村の場合はリーダーの土地)、野菜を共同生産していた。各組合員が提供できる労働力（夫や子供が手伝う場合もある）に応じて、耕作する畝を割り振っているとのことであった。

また、これまでの取組における課題を抽出するため、調査期間中、チェク村とトラオ村を対象に野菜栽培に関する問題抽出のためのワークショップを行った。課題としては、「資材が不足」「水が少ない」といった資材面での意見は当然ながら多かったが、他方、

「野菜をマーケットに持っていっても売れない」「植えている野菜と市場のニーズが一致していない」という危機感もあることがうかがえた。解決策としては、「市場ニーズに合わせた野菜栽培計画を立てる」や「メンバーで仲買人を組織する」といったアイディアが出され、今後の活動に向けて、意欲が高まったようであった。

チェク村、トラオ村は先行事例であることから、今後活動を進めていくに当たり、問題分析をより掘り下げ、課題の抽出を行っていくことは有益であると考えられる。

(2) 野菜出荷の方法について

既に野菜の生産を開始しているチェク村・トラオ村においても、共同生産した野菜を村内の小売店に持ち込み、販売はしているが、本格的な公共市場への出荷経験はほとんどない。以前、マーケットに野菜を持って行ってはみたものの売れなかったというメンバーもいた。

農家やマーケットで仲買人から聞き取りをしたところによると、農民が野菜を販売するには、大別して以下の 2 通りの方法がある。

① 農民が直接マーケットもしくは小売店に野菜を持ち込む。マーケットへの持込の場合でも、農民が直接消費者に販売するのではなく、小売店もしくは仲買人に対して売る。持ち込みの量に上限下限はない。
② コレクターに集荷（買取）を依頼する。この場合、ガソリン代の関係もあり、一定量以上の野菜を出荷できることが求められる。

※ コレクターは、野菜を集荷しマーケットで仲買人に野菜を卸す。自分で販売は行わない。仲買人は自分で集荷も販売も行う。集荷先は農家だけではなく、あるマーケットで野菜を仕入れ、別のマーケットに売りに行くときもある。

コレクターや仲買人は野菜の買い取りにあたっては、マーケットでの需要や野菜の質（形・色・サイズ・熟度・損傷等）で価格を判断しており、マーケットでの流通事情に通じていない農民が買い叩かれていることも想像される。

チェク村・トラオ村を対象としたワークショップでは、過去に仲買人経験のあるメンバーがいることも判明し、それらの経験者を中心に販売方法を検討していくこととなった。インタビューした仲買人からは、現在需要に見合うだけの野菜の仕入れを行えておらず、更にベトナム野菜は高価という問題もあるため、もし女性組合で野菜生産が一定量確保できるのであれば、是非仕入れたいという意見も出た。

また、スバイリエン州の隣、プレイヴェーン州で同様に農村女性の支援を行っているローカル NGO の CEDAC では、その地域のマーケットを管理している国税局に使用料を支払った上で、固定店舗を確保し、そこで女性たちが野菜を販売する、という手法を採っている。CEDAC でも IVY と同様に、女性たちでグループを作り、CEDAC から研修や種の提供を受けて、野菜を栽培して出荷している。ただ、出荷方法については、CEDAC としての店舗が確保されていることから、個人で売るか、グループの代表がまとめて売

るか、出荷方法はグループによって異なる（ただし、個人出荷の場合も、グループ内で話し合って栽培･販売する野菜が重複しないようにしているとのことだった）。

なお、IVY と同じく CEDAC でも無農薬野菜を栽培･販売していることから、マーケティング方法について聞いてみたところ、店舗に無農薬の看板を出しているわけではないが、販売する際に客に農薬の害を説明することで、少しずつ固定客を確保したとのことだった。仲買人は、野菜の買取りにあたって農薬使用の有無を重要視していないと話しており、地域住民に無農薬野菜の利点が知れ渡っているわけではないが、説明して理解されれば、他の野菜よりも多少高値で売れるようであった。

(3) 市場のニーズ調査の実施

本プロジェクトで目指す、女性組合が独自に運営する野菜販売システムの確立のためには、市場や消費者の動向調査、ひいては出荷先市場の確保を行うことが非常に重要となってくる。しかし現在、プロジェクトに参加する女性組合にとっての野菜販売は「作れたものを売る」という段階であり、「消費者に売れるものを作る」という発想まだ弱いといえる。そのため、安定して出荷していくということになると、市場の動向についての情報を入手し、女性組合側の供給事情（栽培可能な野菜、その時期）についても詳細に把握した上で、計画的な野菜栽培を行う必要がある。

IVY では、これまで市場での流通野菜や売り上げについて調査を行ってきたが、将来的には女性組合自身がマーケットでの需要や価格情報を入手できるようになることが望ましい。販売先については、それぞれの村において、野菜の輸送コスト等の条件を考慮し、定期的な出荷･販売が可能な市場を開拓していく必要がある。IVY 内で新しく設置されたマーケティングチームや、仲買人経験のある助成組合メンバーを中心に、マーケティングの機能を強化していくことが期待される。IVY においても、調査団来訪後、2007 年 2～3 月にかけてベースライン調査を行い、その後の女性組合のモニタリングにデータを活用していく予定である。

また、スバイリエン州農業局との協議では、農業局長からベトナム国境（Bavet）での経済特区の設立計画と、そこへの野菜出荷について提案があり、今後はその可能性についても検討していくことになろう。

(4) 実験事業の実施について

野菜の共同生産と出荷については、プロジェクト対象村のうち新規対象村 6 村を除く 14 村から、更に 4 村を実験事業の対象村（Experiment Village）として選び、まず試行的に各種トレーニング、野菜栽培と出荷の取り組みを開始する予定である。事業 1 年目は、4 村に対して集中的な投入と指導を行い、様々な野菜栽培・出荷の方法を試行した上で、その組み合わせを村毎にパッケージ化することを目指す。2 年目以降に他の村が出荷方法を選択し、取り組んでいくこととなる。

なお、14 村のうちチューティール地区のチェク村とトラオ村では、本プロジェクト開始前から女性組合のメンバーが協働して野菜栽培を開始していたことから、先行事例として実験事業の対象となる可能性が高い。残り 2 村については、各グループからの提案書を審査した上で決定するとのことであった。

なお、野菜栽培の土地に関しては、チェク村での取り組みと同じく、共同圃場（休閑期の水田等）を確保して組合員が分担作業するということが主に想定されている。しかし、女性たちは女性組合や農業学習会の成果として各家庭に家庭菜園を持っている場合が多い。従って、各家庭で収穫される野菜はどのように扱うのか（共同出荷に含めるのか含めないのか、含めるとしたら規則をどうするのか等)、共同圃場と家庭菜園のバランスについても考慮する必要がある。

第３章　調査の総括

（1）プロジェクト対象地域では、これまでの IVY の長年の協力により、農民との関係は構築されていると言える。共同出荷に向けた動きは緒についたばかりであるが、今回の調査期間中に行った女性組合対象のワークショップ、スバイリエン州農業局との協議を通じて、情報を共有することで関係者にプロジェクトに関する理解が深まり、プロジェクト開始の基盤ができたものと考える。
しかし、プロジェクト対象村で活動が先行しているチェク村、トラオ村の女性組合においても野菜の共同生産の段階であることから、実際にマーケットへの出荷に向けては、これから情報を把握していくべき事項も多い。また、これまでの村内のみの活動から外部要因も多い活動に移行することから、ターゲット自身が共同出荷とする利点、そのために何をし、女性組合という既存組織とこれまでの取組をどう活かすことができるのかという点を十分に理解できているかどうかは重要である。新規活動村も含めて、女性組合がビジョンをしっかり持てるように、指導していくことが必要である。

（2）先行事例として既に野菜生産を開始している地域を対象に、課題抽出のワークショップを行ったところ、「市場の情報が入手できていない」「野菜の計画栽培が出来ていない」という問題が野菜生産グループメンバーからも挙がり、共同出荷に向けて必要とされる情報が十分に把握できていないと感じざるを得なかった。これらの情報には農村内での人間関係をはじめとする社会関係情報が含まれることから、短期のベースライン調査では把握が困難であり、プロジェクト活動をしつつ聞き取りや話し合いの中から見つけ出すことになる。更に、IVY 内に設けられたマーケティングチームは新しい取り組みとなるので、そのキャパシティを高める必要がある。

付　属　資　料

Project for rural development through collective vegetable shipment PDM ver. 2.0

Period：Jan. 2007 ～ Dec. 2009　Targeted area：5 communes　20 villages

Summary of Project	Indicators	Means of Verification	External Conditions
Super Goal Livelihood of rural people is improved by enhancing domestic demand of vegetables in the targeted villages.	Total VWA sale in each village from collective shipment increases.	Survey	
Overall goal Collective vegetable selling is managed Village Women Association (VWA) independently.	VWAs establish mechanism to procure internal fund to continue its mutual assistance activity	VWA accounting book VWA activity report	
Project goal System of vegetable collective shipment and sale is established by VWA.	1. VWA's organizational capital is increased by collective vegetable shipment in 14 villages. 2. Collective shipment of vegetables is started in the 6 new targeted villages.	VWA activity report	1.There is no natural disaster and political upheaval 2.There is no grand price fluctuation of agricultural products
Outputs 0. Situation in the target villages is grasped. 1. Extension model of collective vegetable shipment is devised. 2. Human resources to lead VWA collective shipment are developed. 3. Vegetable growing techniques for sale are obtained among producers. 4. Vegetables are stably shipped and sold. 5. Information network with PDA is strengthened.	0. Baseline survey result is reported and shared. 1-1. Rules and regulations of the model is made by VWA. 1-2. Collection and shipment of vegetables are regularly conducted. 1-3. Vegetables are regularly shipped by middlemen. 2. VWA sets up organizational goal and makes annual plan for each year. 3-1. Number of members who produce vegetables follows VWA technical guideline. 3-2. Members of technical committee collect technical information from PDA and share it with VWA farmers. 4. Total income of each group from vegetable sale increases. 5. Hold regular meetings with PDA more than10 times in 3 years.	0. Project report 1-1. Regulation book 1-2. Ledger of shipment 1-3. Ledger of shipment 2.VWA activity report 3. VWA activity report 4-1. VWA activity report 4-2. Data from market survey 5-1. Project report 5-2. Meeting report	1. Natural disasters such as draught does not occur in the project site 2. NGOs in the target villages share information 3. No grand change in the trade & market system
Activities 0. Conduct baseline survey. 1-1. Select 4 volunteer producer group. 1-2. Start experimental collective production and shipment. 1-3. Evaluate experiment. 1-4. Devise extension model. 2-1. Select management team of collective shipment. 2-2. Conduct training on management. 2-3. Organize exchange conference. 2-4. Hold participatory evaluation and planning for all VWA activities. 3-1. Select the technical leaders of producer's groups. 3-2. Organize technical committee. 3-3. Implement regular training on collective growing. 3-4. Support VWA to practice collective seeding and nursing. 3-5. Organize technical exchange visit. 4-1. Organize sale team. 4-2. Support sale team to make market research. 4-3. Support sale team to conduct marketing. 4-4. Hold agricultural festival in collaboration with PDA. 5-1. Participate in farmer forum. 5-2. Participate in Provincial Sharing committee. 5-3. Hold regular meetings with Project Advisory committee. 5-4. Provide agriculture information to VWA farmers in collaboration with PDA.	***Input*** (Japanese side) Project manager: 1 Project coordinator: 1 Agriculture development facilitator: 3 Community development facilitator: 4 Accountant: 1 Market development facilitator: 1 Domestic responsible person: 1 Training expenses Travel expenses (Cambodian side) Vegetable technician from PDA Meeting place		***Pre-Conditions*** ・Commune chief, village chief and villagers agree to the project implementation ・Project Advisory committee is organized.

付属資料 1

付属資料2

THE MEMORAMDUM
BETWEEN
THE INTERNATIONAL VOLUNTEERS OF YAMAGATA
AND
SVAY RIENG PRONVINCIAL DEPARTMENT OF AGRICULTURE
ON
THE PROJECT FOR RURAL DEVELOPMENT THROUGH COLLECTIVE VEGETABLE SHIPMENT

The International Volunteers of Yamagata (hereinafter referred to as "IVY") exchanged views and had a series of discussions with Svay Rieng Provincial Department of Agriculture (hereinafter referred to as "Svay Rieng PDA") for establishment of the Project Advisory Committee (hereinafter referred to as "PAC") , based on the Minute of Meeting singed by IVY, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (hereinafter referred to as "MAFF") and Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") in December 2006.

As a result of the discussion, IVY and Svay Rieng PDA agreed to establish PSC as the document attached hereto.

Svay Rieng, February 2, 2007

Mr. KIKUCHI Tadashi
Project Manager
IVY

Mr. THACH Ratana
Director
Department of Agriculture
Svay Rieng Province

ATTACHED DOCUMENT

I. Purpose of establishment

1. To contribute to smooth implementation of the Project
2. To utilize lessons learnt of the Project for future development activities in Svay Rieng Province

II. Function of PAC

1. To monitor the Project
2. To advise the Project activities
3. To provide comments on the annual activity plan of the Project
4. To review the Project Design Matrix
5. To advise issues and problems related to implementation of the Project
6. The report of PAC is to be submitted to MAFF, JICA and other stakeholders.

III. Members of PAC

Chairpersons:

Director of Svay Rieng PDA

Project Manager of IVY

Members:

Project Coordinator of IVY

Governor of Svay Churum District

Commune Chiefs from Thhoeu Teal commune, Don Sa commune, Thlock commune, Svay Yea commune, and Pouthi Reach commune.

Representatives of Village Women Association Committee (VWAC)

Observers:

A representative of JICA Cambodia Office

A representative of MAFF

A representative of Provincial Department of Women's Affairs

A representative of Provincial Department of Rural Development

Other persons concerned who the chairpersons admits its necessity

IV. Frequency of PAC

PSC will be held every three months. Ad hoc meetings maybe called by the chairpersons if necessity arises.

TK

女性組合対象ワークショップ議事録

① 問題分析

【日　時】2007 年 2 月 2 日
【参加者】女性組合メンバー10 名（チェク村、トラオ村から 5 名ずつ）
【場　所】チューティール地区チェク村
【時　間】9:00～11:30
【ファシリテーター】IVY スタッフ

【目　的】既に野菜生産に取り組んでいる女性組合メンバーから、これまでの取組を基に、野菜生産や共同生産の課題を抽出してもらい、今後の活動計画に活かす。

1. 課題抽出

【質問】野菜を共同生産する利点と課題は何か？

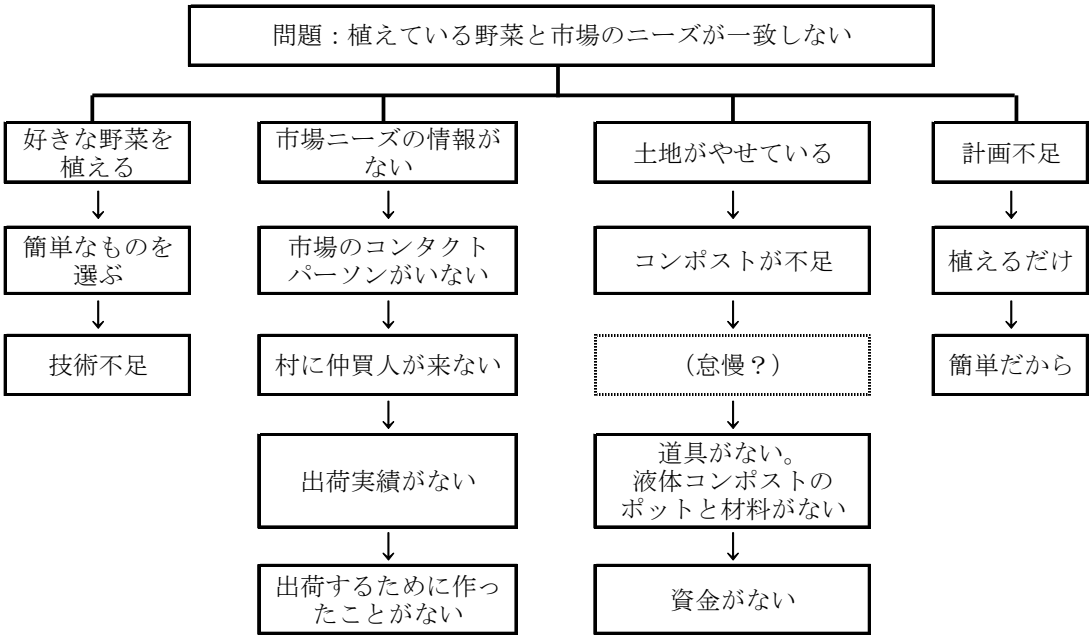
利点

- 友人を作れる
- 経験を共有できる
- 販売のために野菜を集めることが出来る
- 問題について話し合える
- 収穫量が多い
- 畑の保護（防護柵を協力して作れる）
- 水遣りを分担できる

課題

- 水源が不足
- 種子の質が低い（自分たちが保管しているものはあまりうまく育たない。芽が出ないこともある）
- 害虫対策
- 防護柵を作るための資材がない
- 土地がない（雨季は稲作なので、野菜栽培に土地は使えない）
- 雨季には野菜を出荷できない
- 資金不足（種子や農具、肥料、柵等が購入できない）
- 野菜をマーケットに持っていっても売れない
  → マーケットで需要がある野菜を作れない。
  マーケットのニーズを知らない

2. 中心問題を設定し、問題分析



3. 解決策について話し合い
   - 仲買人に接触して契約する
   - 市場ニーズに合わせて野菜栽培計画を立てる
   - 村の仲介人を組織する
   - 耕作地を増やす
   - 家族に手伝いを頼む
   - 生産者グループから仲介人、販売者を選ぶ
   - グループで管理人を選ぶ

② 関係者分析･SWOT 分析

【日　時】2007 年 2 月 2 日
【参加者】女性組合代表者 42 名（14 村から 3 名ずつ）、対象地区の村長 14 名、
Commune Council メンバー4 名（チューティール地区とドンソー地区から 2 名ずつ）
【場　所】チューティール地区プンコー村
【時　間】13:00～15:30
【ファシリテーター・書記】IVY スタッフ

Objective:

- To discuss for finding the project stakeholder
- To make SWOT analysis on VWA.
- To enhance the relationship between VWA, authority and donor.

Agenda:

1. Opening
2. Gaming
3. Discuss to find project stakeholder
4. Break
5. SWOT analysis on stakeholder
6. Review & close

Starting workshop:

1 The workshop was opening at 1:30 PM; Mr. Vuthy introduced the meaning and agenda of the workshop.

2 After presentation of objective of workshop all participants enjoyed the game that facilitated by Kunthea-san and other IVY staffs.(the game is try to call the name of bird one by one but can not overlap the name, if not so, the penalty dancing was given to participants).

3 After enjoyed with game we discuss to find who is the stakeholder by make brainstorming that facilitated by Sanin-san, after make brainstorming we get the result as below:

- Seller
- Commune council
- Transportation
- Buyer (villager, retailer, middleman, collector)
- Producer
- VWAC
- Authority
- IVY staffs
- Consumer
- PDA, district governor

Conclusion idea to make category of stakeholder:

- Beneficiary
- Determination producer
- Cooperator
- Supporter
- Donor

4 **Make SWOT analysis with divide in 3 groups that facilitated by IVY staffs.**

SWOT analysis:

Strength	**Opportunity** (*misunderstood as improving points)
<u>+ First Group:</u> - Woman can cooperate to create VWA - Have clear structure for leader - Create rice bank - Have skill to make cook stove for saving firewood - Create plate association - Agriculture activity (Chicken raising and vegetable growing) - Compost saving, make herbal medicine - Fruit tree growing -	**<u>+ First Group:</u>** - If no supporting from IVY, VWA can not created - More strengthen with village leader and VWA - More strengthen with district officers, Provincial officers and other authorities.
<u>+ Second Group:</u> - Good sodality and good cooperation - Have VWA - Have a chance to implement project - Supporting from VWA members - Woman can lead the organization instead of man.	**<u>+ Second Group:</u>** - Try to strengthen the capacity of leaders - To cooperate with VWA members in order to get strong organization and improving - To get more income to improve our living
<u>+ Third Group:</u> - Have capacity for leading - Sodality - Good behavior - More information sharing - The members participate on time - Field have potential for Vegetable growing	**<u>+ Third Group:</u>** - More participate in technical training on vegetable growing that conducted by IVY - Try to achieve on vegetable growing - To get more income for families.

Weakness	Threat
+ First Group: - The meeting not on time - VWA lack of capital - Agriculture technical is limited - Leadership of VWA still low -	**+ First Group:** - For livestock raising was beat by disease. - Vegetable destroyed by insect - Lack of water resource
+ Second Group: - Lack of capacity for leading - Participate the meeting not on time and more absence.	**+ Second Group:** - Minority of villager (non-VWA) may criticize VWA - Vegetables were destroyed by more insects - Lack of water resource in dry season - Lack of agriculture tool - Lack of seed - Lack of technical
+ Third Group: - Low capital - Lack of agriculture technique - Lack of cooperation from VDC	**+ Third Group:** - Lack of water resource and irrigation for vegetable growing - Poor soil - Can not grow vegetable to complete the market need

+ Recommendation from Ms. Adachi (IVY director)

I would like to say thanks you very much to all participants that take time to participate in this workshop. I request to all participants please continue to participate and cooperate to work together in 14 villages in order to make plan for growing vegetable for sale. I hope we will see you again. So I would like to say good bye, I will fly back to Japan tonight.